

入試に頻出のテーマに触れて視野を広げ、
さまざまな角度から物事を深く考える力をつけます。

難関中学校の入試では大人向けに書かれた文章もよく出されます。小学生にとって通常の生活範囲内では出合いにくいテーマも多く、訓練なしに文章を読み解くのは困難です。中学受験コースでは、文章の読み取り方だけでなく、テーマごとに重要な考え方や対比される価値観などを4年生の段階から扱います。文章の読み取りをとおして、難関中学校受験に必要な「物事を多角的にとらえ、深く考える力」を養えます。

学習例：◎中学入試に向けた読解力と表現力の基礎を固める

●入試頻出のテーマを分析

「要点」では、各月ごとに入試頻出のテーマを取り上げます。具体的に整理された論点を読み、世の中のさまざまな価値観などに触れながら、広く深く考える習慣をつけることができます。

●日本人の気しつ

日本人の気しつについて、研究者や外国の人々によって次のように言われることがあります。みんなが感じている「日本人らしさ」と、あっているでしょうか。

《まじめ・働き者》
日本人はいそがしいことが良いことだと考えがちである。
《細かなことが得意》
日本の電車は、秒単位の正らかなスケジュールを守っている。また、日本人は機械の細かな部品を作ったりすることが得意である。
《はじをかくのがきらい》
日本人は、人前で失敗してはじをかくのをおそれる。
ぼくも手をあげて発表するとき、「まちがっていたらごしよつ」ってときどきする」とがあるよ。あのときどきする気持ちも、日本人らしいところかなあ。

要点

考え方や人とのせつし方に大きく違いがあります。

●自分で考え、書きこむことで、
テーマの理解を深める

単に読むだけの学習では、理解したような気がしていても、実際に問題を解く力はなかなか身につにくいもの。「授業ノート」では、さまざまな論点について、自分の頭で考え、実際に手を動かして書きこむことで、入試頻出のテーマをしっかりと咀嚼し、理解を深めて定着させることができます。

授業ノート

やってみよう①
日本人にはどのような気しつがあると思いますか。あなたの考えを書いてみましょう。

+

●入試につながる
記述力の基礎を養成

難関中学の入試で頻出の記述問題は、原則として毎回出題。標準レベルから発展レベルまで段階的に演習を積むことで、苦手になりがちな記述問題でも確実に得点するための基礎を養います。

練習問題

問一
①、部屋にモノを置かなかったのは、日本人が住まいに対してどのような感覚を持っていたからですか。文中の言葉を用いて書きなさい。

問二
（A）にあてはまるものを次の中から一つ選び、記号を○で囲みなさい。
ア 家中に多くの道具類があるのは、ぜいたくな感じがする
イ 家中のどこにも道具類がないのは、みすばらしい感じがする
ウ 身のまわりに多くの道具類があるのは、下品な感じがする
エ 身のまわりに多くの道具類がないのは、心細い感じがする

●根拠に基づいて選択肢を絞りこむ

「なんとなく」で選んでしまいがちな選択式の問題でも、正解を得るためにはしっかりとした根拠が必要です。問題文と選択肢を照らし合わせながら、明確な判断基準に基づいて解答を絞りこんでいく力をつけます。

+

●論理的な思考を養う解説

正解への道筋を丁寧に説明します。不正解の時はもちろん、正解の場合でも、正解にいたる論理的な思考の流れを再確認することができ、確かな読解力が身につきます。

考え方

はきものをはいたまま家に入る習かん。

先生の解説を見る

問題文をよく読んで、いすとテーブルとベッドの国の人々の生活について書かれている部分をさがしましょう。第一だん落に次のように書かれています。
中国は東洋の国ですが、西洋の国々と同じように、いすとテーブルとベッドの文化をもっています。かれらもやはり、はきものをはいたまま家に入るからです。
はきものをはいたまま家に入るといふ習かんから、いすとテーブルとベッドの文化になったのだとわかりますね。

丸つけの仕方

先生の解説を見る

答えのポイントは次のとおりだよ。自分の書いた答えの中に、次のポイントが書かれていたら、となりに線を引いて印をつけておこう。すべて書けていたら○だよ。
「はきものをはいたまま家に入る」を書けた。
文のおわりを「〜習かん。」「〜習かんがあるから。」にできた。

●解答を吟味する習慣づけ

すべての記述問題に「丸つけの仕方」をご用意。解答に必要な要素を分解して示し、自分の書いた答えを吟味する習慣づけを行います。模範解答と自分の答えを見比べ、違いを意識することが、確かな記述力につながります。